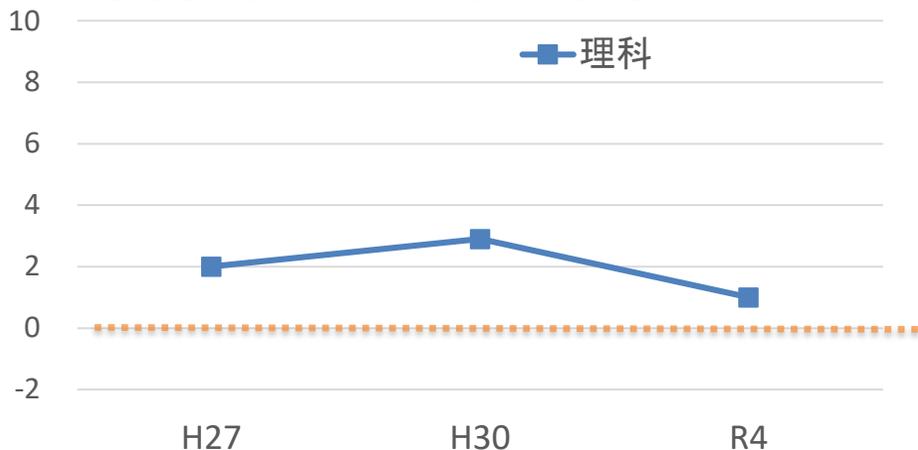


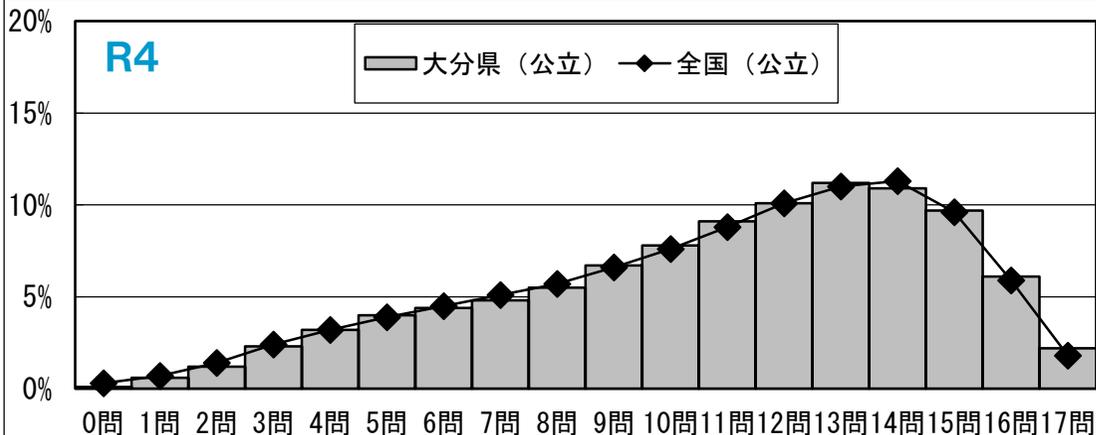
結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均を上回った。

4 正答数度数分布



2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
エネルギーを柱とする領域	51.9	51.6
粒子を柱とする領域	61.6	60.4
生命を柱とする領域	73.9	75.0
地球を柱とする領域	66.9	64.6

○「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」「地球を柱とする領域」で、全国平均を上回る。
 ▲「生命を柱とする領域」で、全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	64.1	62.5
思考・判断・表現	63.8	63.7

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点は全国平均を上回る。

○低学力層の児童の割合(正答率20%以下)が全国平均より少ない。
 ○正答数が全国平均以上(10問以上)の児童は67.1%であり、全国値66.1%を上回る。

課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低かった問題

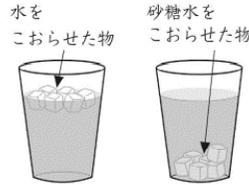
大問2 (4) 【平均正答率 大分県38.4% 全国39.3%】

自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる。

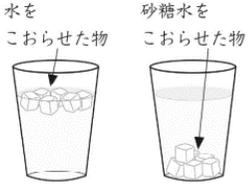
(4) 砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみました。



水をこおらせた物は、紅茶にうくの、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。



水をこおらせた物 砂糖水をこおらせた物



水をこおらせた物 砂糖水をこおらせた物



水に入れても、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。



砂糖水をこおらせた物だから、水にしずんだのかな。砂糖水ではない、ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。
はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

指導の改善

【学習指導のポイント】

自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気付きを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにする。

- 自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気付きを基に分析して、解釈し、問題を見いだすことができるようにするためには、事実を比較し、差異点や共通点を捉えることができるようにすることが重要である。

問題を見いだす力の学習指導に当たって ～「なぜ(どうして)」が出てきたら～

問題を見いだす力の学習指導では、複数の自然の事物・現象に働きかけて得た事実を比較しながら、主に差異点や共通点に基づいて、児童個人が問題を見だし、それを基に学級全体で解決する問題を設定することが考えられる。

その際、児童が「なぜ(どうして)」を含んだ表現をすることがあり、これを学級全体の問題として設定すると、解決が困難になることがある。

例えば、予想や仮説は実証が困難なものがあったり、たとえ実証できても、この問題が解けたかどうか決めることが難しかったりして、結論を導きだすことができない場合があることも考えられる。

そこで、学習指導に当たっては、児童から「なぜ(どうして)」が表出された際は、児童が調べたいことに着目し、観察、実験を行うことなどを通して、科学的に解決していくことができると考えられる問題を設定できるようにすることが大切である。

【正答例】ほかの水よう液をこおらせた物は、水にしずむのだろうか。

【誤答例】なぜ、砂糖水をこおらせたものは水にしずむのか。

※水溶液を凍らせた物を対象として、液体に沈む、浮く現象自体を問うことを示す内容で記述している。(大分県7.7% 全国8.3%)